

私学助成署名推進ニュース

全国私立学校教職員組合連合
No.20 2018年11月20日(火)

私学の諸矛盾の根本問題解決に向け「全国の私学はひとつ」の力を発揮しよう!!

多忙な中、各県奮闘し11/16集約 1,448,793筆に

11月も中旬を迎えています。各都道府県では、都道府県向けの請願(陳情)署名の議会あるいは知事提出に向けて署名運動の追い込みに入っているところです。「私学助成全国署名」11月16日集約ですが11月20日現在で11の都道府県から報告が届き上記の集約数となっています。

署名集約 数々のドラマが...

「新しい経済政策パッケージ」の前倒し実施、教育条件改善に向けた経常費助成国庫補助大幅増額をめざし、多忙な中、各職場で奮闘されている処です。

岩手：一関学院では、愛知新歓フェスティバルで全国に触発を受けた生徒会の生徒たちが、クラスごとの集約グラフを掲示。署名集約を各担任に督促して集約強化に取り組んでいます。

愛知では、高裁で和解が実現した豊橋中央高校が、署名運動でも気を吐いています。青年部が電話がけに入り、11/16に前年同期を15,000筆上回るハイペースで56,000筆を集約しました。

同じく愛知：享栄高校では4万筆目標に対し、すでに目標を突破し47,000筆へ。ここは未組合員の運動部クラスが先頭を走っています。生徒のみならず、安心して部活動に打ち込める背景に私学助成金がある事を伝え、生徒たちが保護者に署名の協力を訴えているという事です。

各県、各学園でこうしたドラマが、多忙な中展開されている処だと思えます。その集約が冒頭の集約数ですが、残念ながら、前年同期を下回っています。

全国で “電話掛け” に取り組もう!!

学費の公私間格差、自治体間格差は、まだまだ深刻です。その事を伝えることが、署名運動の要点です。潜在的な署名数が配布先に眠っています。それらを集約するためにも、最終盤に向け、配布先への電話掛けに全国で取り組みましょう

新潟：「私学のひろば2018」開催 市民に私学の魅力、学費問題をアピール

にいがた私学助成すすめる会ニュース

子どもたちが学費を心配せず、学校で学べるように、私学の学費も無償に!

2017年11月16日

新潟県私学の公費助成をすすめる会
新潟市中央区弁天 1-13-13
TEL 025-286-7600

私学の魅力を発信 私学のひろば2018を開催



参加者で会場は満席に。親子の市民の参加も目立ちました。藤原さんの講演を熱心に関心参加者(写真上)。元気いっぱい、笑顔が印象的だった中越高校・チアリーディング部の演技(写真下)。

私学助成署名の目標達成へ決意を固め合う場にも
十一日、新潟市内の会場で「私学のひろば2018」が開催され、私学の父母・教職員・生徒、市民ら約一四〇名が集い、学び語り合いました。花角英世界知事からメッセージが届けられ、参加者に紹介されました。また、全国私学助成をすすめる会共同代表の永島民男さんがお祝いのあいさつを述べました。
オープニングは、中越高校チアリーディング部による元気いっぱいの演技で会場を沸かせました。
記念講演は、ネット上でブログ「健康のすすめ」を立ち上げフォロー数二〇万人の藤原ひろのぶさんが、「無関心が生み出すもの」と題して講演しました。
その後開かれた「ひろばでしゃべり場」には、私立高校の父母と生徒、教職員が話し手として登場、私学父母の会事務局長の坂井雅博さんが聞き手となり、私学の良さや魅力を引き出しました。「ひろば」では、私学助成署名運動が終盤を迎えたことから、私学助成についてあらためて学び直し、私学助成署名の目標達成にむけた決意の場となりました。プレゼン「私学助成入門」は、作成者の加茂曉星高校教員・山島昭さんが解説しました。最後は、集会アピールを参加者の満場の拍手で採択し、閉会しました。



青陵・文化祭クラス企画の作品(市内バス運行システムなど)を会場ロビーに展示。



プレゼン「私学助成入門」では、私学助成のしくみや大切さ、当面の運動課題や署名の意義など、分かり易く解説。署名運動終盤にむけて奮闘を決意。

講演する藤原ひろのぶさん。「アフリカやアジアの発展途上国の人々が低賃金や厳しい環境の中で衣料や食品づくりに従事し、その作られた物を日本人が利用している。日本は食料廃棄物の量が世界6位だ。ヒステリックになる必要はないが、自分ができることから始めてほしい」と、無関心でいることからの脱却を、と語りかけました。



物販に、司会に 父母の会奮闘!



司会を務めた青陵父母の会(右)と山島さん(左)



「ひろばでしゃべり場」では、私立高校の現役生徒と父母、教員が私学の魅力などを語りました。「先生が悩みなども良く聞いてくれる。先生の異動がないので卒業してもいつでも会えることがいい」(生徒)、「父母の会に参加するのが楽しみ。全国の集会で自分のことのように意見を言ってくれる人達に感動」(父母)、「生徒が卒業したあとも学校を訪ねて来てくれた時、授業で教えたことがどう生かされているのか。成長しているのが楽しみ」(教員)